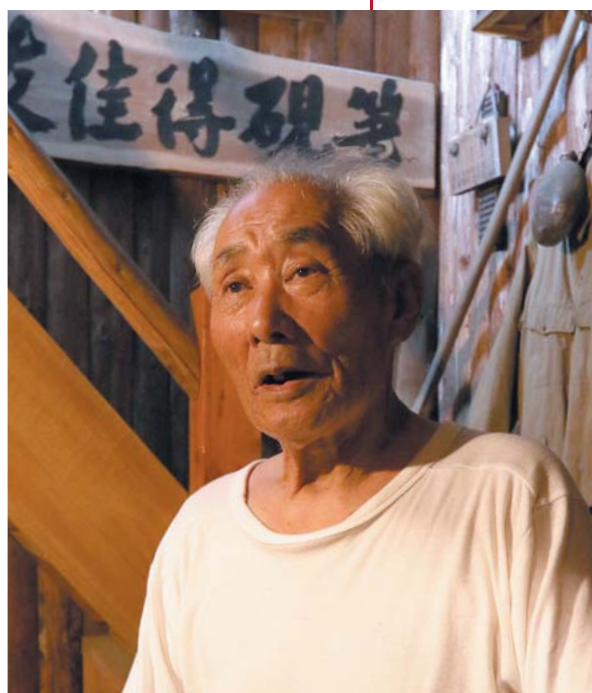


伝えたい、あの戦争の記憶を

記憶、つなぐ。

太平洋戦争の終結から72年。戦争体験者の話を直接聞く機会は年々減ってきています。その当時に生きた人たちは、それぞれに過酷な運命に立ち向かったことでしょう。だから戦争を知らない世代が次の世代にその記憶を伝えていくことが必要ではないでしょうか。戦争体験者にお話を聞きました。



金子 健吾さん（開拓・32区）

●1923年生まれ。米国で生まれ、幼少期は館林市多々良町で過ごす。16歳のときに、横浜の日産自動車従業員養成所に入所。その後、徴兵検査に合格し、現役兵として陸軍に入隊。終戦後は、大改革する社会に空虚な月日を過ごし日本陸軍と進駐軍の通訳を務めていた母の薦めで開拓団に入植し、邑楽町に住み始める。

地獄の訓練の日々 軍国主義教育の日常

「昭和14年、私が当時16歳のときでした。最初は訓練がつらくてね」と語り始める金子さん。金子さんは、高等小学校を卒業後、満州重工業総裁、鮎川義介氏の作った、日産自動車従業員養成所に入所したそうです。

金子さんはそのときの記憶を「全国から集まった400人が宿舍で共同生活。ラップで起き、ラップで寝る生活。今じゃ考えられないと思いますが、当時の世の中は軍国主義教育の



起きる合図は起床ラップで

時代。入った当初は、つらかったねえ」と話し、続けて「軍事教練という授業が厳しかったね。銃を使った軍事訓練、暑中稽古、寒稽古などがありました。まあ、簡単に言えば、人を殺す訓練。教官も軍人さんたちですから、目つきが違うんだよ。つらくて、途中で逃げ出した人もいました。私が、私は逃げずに4年間耐えました。そのおかげで、その経験は私の宝です」と当時の苦しかった記憶を振り返ります。



10代の子どもたちが、銃の演習を行っていました

が、国のために軍事訓練を当たり前のように行っていた時代が日本にもありました。金子さんは「苦しかったですが、一緒に学んだ仲間が存在は大きかったです。戦後、旧友たちと再会すると、当時の記憶が蘇ります」と話します。

合格でした。もちろん覚悟できていましたので、なんの怖さもありませんでした」としっかりとしたまなざしで語ります。

甲種合格、いざ入隊。 配属先は極寒の地

金子さんの配属は、北朝鮮咸鏡北道会寧邑（現在の北朝鮮東北部）104部隊でした。入隊後のことについて金子さんは「夜中、東京駅に集合でした。そこから、長く電車で揺られ、門司港から博多に渡り、船で釜山へ。さらに真つ暗な貨物列車に揺られ、会寧というところへたどり着いた記憶があります」と当時の記憶を振り返り、「敵に見つからないように貨物列車で運ばれたの

一緒に苦楽を共にした仲間たち。厳しい訓練をしていたとは思えないほど笑顔



←当時身につけていた、軍服(写真左)とヘルメット(写真右下)



「何日待っても、先発隊の船は帰ってきませんでした。本当に

だろう」と話します。会寧邑での任務は、戦闘機のエンジン整備と飛行場の護衛。ここは、北緯40度の場所。屋外は零下20度の環境だったそうです。

そのときの体験を金子さんは「外に出ると極寒でね。寒さに耐えながら、やるんだけど手が動かないんだよ。けれど毎日訓練しなくてはいけないからね。途中で逃げ出した人もいたよ」と話します。その後、いよいよ戦地に向かうことになり、博多港に戻り、フィリピン行き先発隊を見送り、待機をしていました。

長い時間、待機していました」と話します。台湾経由でフィリピンに向かった船11隻。ほとんどが沈められてしまったそうです。



飛行機の秘密工場を作

るっていうので、栃木県の大谷石採掘場の洞穴に手伝いに行きました。正直、このときはもう負けてしま

うだろうなと……。感じましたね」と話します。その後、すぐに終戦を迎えました。「洞穴を出ると、宇都宮の町が焼け野原になっていました。それから、地元に戻っても何もやる気がなくてね。ただ、地元が無事だったことは唯一の救いだったね。けれど戦争に負けるってことは、悲惨だよ。本当に何もなくなってしまうのだから……」と言葉を濁します。

「帰ってきて、縁あって開拓団に入りました。広い野原に六坪の小さい小屋を建て、髭を伸ばし仙人に近い生活。毎日土を耕し、がれきのような濡れた黒土を眺め返しては、心の痛みを癒していたよ」と戦後の生活について話します。

最後に、戦争について金子さんは「戦争は、いろいろなことがでたらめばかりだったね。私の兄も沖繩で戦死したけれど、知ったのは終戦から1年後。日本をめちゃくちゃにしたね。戦争は……」と話し、「軍国主義教育を受けてきた私には、敗戦によって変わった社会にはショックを受けたよ。今までなんだったのかって……。私に残ったのは家と畑、そして、空虚感だったね……」と語ってくれました。



戦争が終わり、残されたものは家と畑と空虚感だけだった

INFORMATION

戦没者追悼式

町では、戦没者追悼式を開催します。遺族や関係者をご参加ください。

- ▶期日 9月28日㊥
- ▶時間 午前10時～
- ▶会場 邑楽町公民館
- ▶問合先 役場健康福祉課 ☎47-5024

第10回特別弔慰金

▶支給内容 額面25万円（5年償還の記名国債）

▶対象 戦没者などの死亡当時の遺族（基準日に、公務扶助料や遺族年金などを受ける人がいない場合）

※優先順位は次の通りです。

- ①基準日までに「戦傷病者戦没者遺族等援護法」による弔慰金の受給権を取得した人
- ②戦没者などの子
- ③戦没者などの死亡当時に生計を共にしていた父母、孫、祖父母、兄弟姉妹（婚姻や養子縁組により、基準日で氏が変わっている人は除く）
- ④③以外の父母、孫、祖父母、兄弟姉妹
- ⑤①～④以外の3親等内の親族（戦没者などの死亡時まで引き続き1年以上生計を共にしていた人に限る）

※基準日は平成27年4月1日。

▶請求期限 平成30年4月2日㊥

▶請求先 住所地の市区町村役場

▶問合先 県国保援護課 ☎027-226-2678
役場健康福祉課 ☎47-5024

EVENT

第34回邑楽町平和展

- ▶日時 9月2日㊥・午前10時～午後3時
- ▶会場 町立図書館

※展示スペースは8月26日㊥から。図書館開館日の午前9時～午後6時。

▶内容 風船飛ばし、読み聞かせ、映画上映、紙芝居、講演会、戦時服試着体験、昔の遊び体験、戦時食の無料配布、模擬店など
※発展途上国の人たちの経済・社会的な自立を支援する運動の一環として、フェアトレード商品の販売や紹介、試飲を行います。

▶問合先 平和展実行委員会事務局
役場安全安心課（高橋） ☎88-5511